

**EU Institute In Japan Tokyo**

**Second Half Year Report  
of  
2011 Academic Year**

**October/2011 - March/2012**

**May, 2012**

# EU Institute In Japan Tokyo Second Half Year Report of 2011 Academic Year

## Table of Contents

### Activities

1) Tokyo University of Foreign Studies.....	1
(1) Application for the Grants-in-Aid for Scientific Research <KAKENHI> to the Japan Society for the Promotion of Science (Project no. TUFS2011(2H)-1).....	1
(2) A Courtesy Call from the International Cultural Centre (ICC), Krakow, Poland (Project no. TUFS2011(2H)-2) .....	20
2) International Christian University.....	22
(1) Credit Exchange (Project no. ICU2011(2H)-1)* .....	22
(2) Reciprocal Use of Libraries (Project no. ICU2011(2H)-2)* .....	29
(3) Open Lecture "Challenges to the EU and the Future of EU-Japan Relations" (Project no. ICU2011(2H)-3) .....	31
(4) Open Lecture "Current State and Future Prospects of EU-Japan Relations" (Project no. ICU2011(2H)-4) .....	33
(5) Open Lecture "Croatia and the EU" (Project no. ICU2011(2H)-5) .....	35
3) Tsuda College.....	37
(1) EUIJ Public Lecture "Contextualization in Translator/Interpreter-mediated Events in the time of Globalization" (Project no. Tsuda2011(2H)-1) .....	37
(2) EUIJ Public Lecture "Comparative Refugee Policies: My Personal Experience in Kosovo" (Project no. Tsuda2011(2H)-2) .....	39
(3) EUIJ Public Lecture "E-Government in Sweden and the EU " (Project no. Tsuda2011(2H)-3) .....	41

EUIJ Tokyo consortium is organised the following four Universities:

- Hitotsubashi University
- International Christian University
- Tokyo University of Foreign Studies
- Tsuda College

---

\*Reports on inter-university activities described by ICU representing all member universities.

## Report of Activity under the EUIJ Tokyo Project

Title of the Activity:	Application for the Grants-in-Aid for Scientific Research <KAKENHI> to the Japan Society for the Promotion of Science Project no. TUFS2011(2H)-1
Purpose of the Activity:	Representing EUIJ Tokyo, TUFS made an application for the Grants-in-Aid for Scientific Research <KAKENHI> 2012 to raise funds for EUIJ Tokyo research promotion.
Description/Program:	Project title: European Integration and Regional Studies: New Methodological Approaches Project Leader: Prof. Koichi Kudo, TUFS Project Outline: This interdisciplinary project studies various new methodological approaches to the theme “European integration and regional studies” in three sections: 1. Historical dimension, 2. European dimension, 3. Methodological dimension.
Date(s):	November 2011
Universities/Person(s) involved:	The four member universities of the EUIJ Tokyo Consortium
Place of the Activity:	The four member universities of the EUIJ Tokyo Consortium
Financial resources:	
Results:	To be announced
Future perspectives:	

機関番号	研究種目番号	審査区分番号	細目番号	分割番号	整理番号
12603	05	1	2601		0003

平成24年度(2012年度)基盤研究(B)(一般)研究計画調書

平成23年11月1日  
5版

新規

研究種目	基盤研究(B)	審査区分	一般				
分野	複合新領域						
分科	地域研究						
細目	地域研究						
細目表 キーワード	ヨーロッパ						
細目表以外の キーワード	欧州統合						
研究代表者 氏名	(フリガナ)	クドウ コウイチ					
	(漢字等)	工藤 光一					
所属研究機関	東京外国語大学						
部局	大学院総合国際学研究院						
職	教授						
研究課題名	欧州統合と地域研究の方法的革新：時間的・空間的・方法論的次元						
研究経費 (千円未満の 端数は切り 捨てる)	年度	研究経費 (千円)	使用内訳(千円)				
			設備備品費	消耗品費	旅費	人件費・謝金	その他
	平成24年度	4,610	1,700	100	1,850	660	300
	平成25年度	6,010	500	100	3,330	1,180	900
	平成26年度	3,300	400	100	1,840	660	300
	平成27年度	6,060	400	100	3,380	1,180	1,000
	平成28年度	0	0	0	0	0	0
総計	19,980	3,000	400	10,400	3,680	2,500	
開示希望の有無	審査結果の開示を希望する						
研究計画最終年度前年度応募	—						

研究組織（研究代表者、研究分担者及び連携研究者）

	氏名（年齢）	所属研究機関 部局 職	現在の専門 学位 役割分担	平成24年度 研究経費 (千円)	エフオ ー ト (%)
研究代表者	80255950 (53) クドウ コウイチ 工藤 光一	(12603) 東京外国語大学 (999) 大学院総合国際学研究院 (20) 教授	フランス近代史 文学修士 近代フランスにおけるローカル・アイ デンティティ（「空間的次元」研究 班、研究の総括）	2,310	15
研究分担者	90206673 (59) ソウマ ヤスオ 相馬 保夫	(12603) 東京外国語大学 (999) 大学院総合国際学研究院 (20) 教授	ドイツ現代史 国際学修士 ナショナル・ヒストリーとヨーロッパ 地域研究の新天地（「方法論的次元 」研究班）	300	10
研究分担者	20251564 (47) シノハラ タク 篠原 琢	(12603) 東京外国語大学 (999) 大学院総合国際学研究院 (20) 教授	東欧史 文学修士 「中欧」における市民社会と公共圏（ 「空間的次元」研究班）	200	3
研究分担者	20345242 (44) チバ トシユキ 千葉 敏之	(12603) 東京外国語大学 (999) 大学院総合国際学研究院 (27) 准教授	西洋中世史 博士（文学） 西洋中世の終末意識と君主の統治理念 （「時間的次元」研究班）	300	5
研究分担者	70223873 (50) オオツキ ヤスヒロ 大月 康弘	(12613) 一橋大学 (926) 経済学研究科（研究院） (20) 教授	ビザンツ社会経済史 博士（経済学） 中世キリスト教世界における「ローマ 理念」（「時間的次元」研究班）	500	5
研究分担者	50295458 (49) サノ ヨシノリ 佐野 好則	(32615) 国際基督教大学 (002) 教養学部 (27) 准教授	西洋古典学 学術博士 神話としての「エウロパ」（「時間的 次元」研究班）	500	10
研究分担者	80245993 (62) スギサキ タカモト 杉崎 京太	(32642) 津田塾大学 (004) 学芸学部 (20) 教授	国際政治経済 経済学修士 欧州統合とグローバル資本主義の展開 （「方法論的次元」研究班）	500	10
連携研究者	10138620 (59) ウエダ タカコ 植田 隆子	(32615) 国際基督教大学 (002) 教養学部 (20) 教授	政治学、国際関係論 学術博士 EU対外政策の行方（「方法論的次元 」研究班）	-	-
連携研究者	20203771 (54) オオシマ ミホ 大島 美穂	(32642) 津田塾大学 (004) 学芸学部 (20) 教授	国際関係論 国際学修士 北欧研究から見た国境を超える地域性 （「空間的次元」研究班）	-	-
連携研究者	40251433 (43) アミヤ リュウスケ 網谷 龍介	(32642) 津田塾大学 (004) 学芸学部 (20) 教授	政治学、国際関係論 修士（法学） 欧州統合とEU研究の展望（「方法論 的次元」研究班）	-	-
合計 10 名			研究経費合計	4,610	

**研究目的**

本欄には、研究の全体構想及びその中での本研究の具体的な目的について、冒頭にその概要を簡潔にまとめて記述した上で、適宜文献を引用しつつ記述し、特に次の点については、焦点を絞り、具体的かつ明確に記述してください。(記述に当たっては、「科学研究費補助金(基盤研究等)における審査及び評価に関する規程」(公募要領62頁参照)を参考にしてください。)

- ① 研究の学術的背景(本研究に関連する国内・国外の研究動向及び位置づけ、応募者のこれまでの研究成果を踏まえ着想に至った経緯、これまでの研究成果を発展させる場合にはその内容等)
- ② 研究期間内に何をどこまで明らかにしようとするのか
- ③ 当該分野における本研究の学術的な特色・独創的な点及び予想される結果と意義

**研究目的(概要) ※当該研究計画の目的について、簡潔にまとめて記述してください。**

欧州連合の発足から20年近くを経過し、ギリシアに端を発する昨今の金融危機・信用不安の中で欧州統合のあり方が改めて問い直され、地域研究の方法も深刻な反省を迫られている。本研究は、こうした状況をふまえ、冷戦の終結後、欧州統合の深化・拡大とともに大きく変貌したヨーロッパ地域研究の方法の革新について、とくにその時間的・空間的・方法論的次元に着目して再検討することを目的とする。本研究の最大の特徴は、国民国家の枠組みに囚われず欧州統合と関連して多様化した地域研究の方法に関して、一橋大学、国際基督教大学、津田塾大学、東京外国語大学に所属する人文科学と社会科学の様々な学問分野と地域の専門家を集めて組織する総合的・学際的な研究プロジェクトであり、ヨーロッパ地域研究の再活性化をめざす点にある。

**①研究の学術的背景**

ベルリンの壁の崩壊とドイツ再統一、ソ連・東欧の社会主義体制の崩壊から20年余りが経ち、この間にマーストリヒト条約によって欧州連合(EU)が結成され、欧州統合は著しく深化・拡大を遂げた。これと歩調を合わせて、冷戦後のグローバル化時代の到来に対応する地域統合のモデルとして欧州統合が日本でも注目され、欧州連合の政治・経済・社会あるいは環境の問題、さらに欧州統合の文化や歴史といった問題、さらには東アジア共同体との関連などが多くの様々な研究プロジェクトのテーマとなった。

一方、1989-91年の一連の社会主義体制の崩壊によって、欧州統合とは裏腹に深刻な民族紛争・宗教紛争がヨーロッパでも激発し、ネーションやナショナリズム、エスニック紛争・宗教紛争などに研究者の関心が向かった。さらに、これらの問題は、この間にますます意識されるようになったグローバル化の問題とも密接に関連し、資本の多国籍的な展開とともに外国人労働者や移民、マイノリティの運動や地位、教育や市民権などに関わる研究が盛んになった。

それに対し、本研究が明らかにしようとするテーマに関しては、それぞれの地域や学問分野の具体的な研究において対象化されることはあっても、個別の地域・学問分野を超えた地域研究の方法を総合的・学際的に捉えようとする試みは決して十分とはいえなかった。そこで、本研究では、様々な地域と学問分野の専門家を擁する四大学(一橋大学、国際基督教大学、津田塾大学、東京外国語大学)が連携し、国際的なヨーロッパ研究の拠点とも連絡をとりながら、わが国におけるヨーロッパ地域研究の進捗に資することを最大の目標にすえている。

この四大学は、2004年から3年半の間、欧州委員会と各大学の基金を基に一橋大学を拠点として創設されたEUインスティテュート・イン・ジャパン(EUIJ)東京コンソーシアムの加盟校として、日本におけるEU研究のための学術拠点を形成すべく、教育・研究・情報発信の面で連携してきた。EUIJ東京コンソーシアムはプロジェクトの終了後も各大学の協力・連携事業を押し進めており、本研究はこうした教育・研究面での実績を基にテーマをEU研究のみならず、ヨーロッパ地域研究に広げて構想されたものである。また、2009年に一橋大学、慶應義塾大学、津田塾大学によって創設されたEUスタディーズ・インスティテュート(EUSI)との連携も視野に入れている。

ヨーロッパにおいても、欧州統合の動きに合わせて、EU研究およびヨーロッパ地域研究の拠点が各地域に形成されており、EUIJがすでに協定を結んでいる欧州大学院(European University Institute, EUI, フィレンツェ)、国際文化研究所(International Cultural Centre in Krakow, クラクフ)だけでなく、中欧大学(Central European University, CEU, ブダペスト)やその他の研究機関などとも協力してヨーロッパ研究の方法と現代的意義について研究ワークショップ、国際シンポジウムを開催する予定である。

研究機関名	東京外国語大学	研究代表者氏名	工藤光一
-------	---------	---------	------

## 研究目的（つづき）

### ②研究期間内に何をどこまで明らかにしようとするのか

ソ連・東欧の社会主義体制の崩壊、欧州統合の進展とともに、18-19世紀に生まれた近代西欧の国民国家を自明の前提とし、それを基準とした研究に対する反省から、それに囚われない様々な枠組みでの地域研究の捉え直しが行われるようになった。近代西欧で成立したな学問研究が国民国家単位で組織化され、その枠組みで展開されてきたのに対し、近年のネーションやエスニシティ、ナショナリズム、あるいはグローバリズムに関する研究の深化は、それ以前からのジェンダー研究やカルチュラル・ヒストリー、表象政治文化の研究と相まって既存の研究方法や学問領域を超えた新たな地域研究の展開を生み出している。

このパラダイム転換を、本研究では時間的・空間的・方法論的な次元に分類し、各次元での方法的革新およびその相互関連について検討を加えるとともに、それらを総合して今後の地域研究のあり方を展望する。

1. 時間的次元：近代西欧の学問体系は、国民国家の成立を基準としてその前とその後の近代とを峻別する思考様式に依拠してきたが、ここでは、そのような西欧国民国家の時間軸を相対化し、その前後を貫く中・長期的な時間の枠組みで構想された地域研究を、時代を通底する欧州・欧州統合の理念、各地域における都市や地域の支配の変遷に関わる歴史・文化・社会などについて検討し、その現代的意義と今後の展望を明らかにする。具体的な研究テーマとして、神話としての「エウロパ」、西洋中世の終末意識と君主の統治理念、中世キリスト教世界における「ローマ理念」などを想定している。
2. 空間的次元：フランス革命に始まり、様々な局面を経る中で形成されてきた国民国家体制は、国境線の内側に同質的な民族/国民からなる空間を生み出すことを志向してきた。そうした国民国家の枠組みからは見えていなかったミクロ・マクロな空間的な地域性を、「ヨーロッパとは何か」をめぐる空間認識の変化、「中欧」「北欧」などの地域概念の変容、欧州統合と地域の位置づけの変遷、中心と辺境の相互関係などについて取り上げ、再検討する。具体的な研究テーマとして、近代フランスのローカル・アイデンティティ、「中欧」の市民社会と公共圏、北欧研究から見た国境を超える地域性などを想定している。
3. 方法論的次元：欧州統合の進展に伴い、地域研究の方法は、ネーションやエスニシティへの眼差し、グローバル・ヒストリーやトランスナショナル・ヒストリーなどの新たな提唱、表象・政治文化への着目、ジェンダー研究の進展などによって大きく変貌したが、それは具体的なテーマに即したヨーロッパ地域研究にどのように生かされているだろうか。ここでは、新たな方法論の次元から地域研究の現在と今後を上記二つの次元と関連させて総合する。具体的な研究テーマとして、ナショナル・ヒストリーとヨーロッパ地域研究の新地平、欧州統合とグローバル資本主義の展開、欧州統合とEU研究の展望、EU 対外政策の行方などを想定している。

### ③当該分野における本研究の学術的な特色・独創的な点及び予想される結果と意義

本研究は、近年急速に進展したEU研究としての欧州統合研究（その現状は、EUIJ 東京コンソーシアムの共同研究『シリーズ EU スタディーズ』1. 対外関係、2. 経済統合、3. 国家・地域・民族、4. 企業の社会的責任（勁草書房、2007）を参照）、欧州統合に伴い急速に変化しつつある地域や移民、市民権などの問題を扱う宮島喬氏らの研究（例えば、『地域のヨーロッパ——多層化・再編・再生』（人文書院、2007））から刺激を受けつつ、それぞれの地域や学問分野における個別研究の枠を超えて、人文・社会科学の様々な分野・地域に関わる方法的革新を欧州統合の問題と関連させて検討し、同時に現代の欧州連合の政策領域に限定されない地域研究のあり方を総合的・学際的に再考することを予定しており、その点が本研究の学術的・独創的な特色であり、予想される本研究の意義である。

**研究計画・方法**

本欄には、研究目的を達成するための具体的な研究計画・方法について、冒頭にその概要を簡潔にまとめて記述した上で、平成24年度の計画と平成25年度以降の計画に分けて、適宜文献を引用しつつ、焦点を絞り、具体的かつ明確に記述してください。ここでは、研究が当初計画どおりに進まない時の対応など、多方面からの検討状況について述べるとともに、研究計画を遂行するための研究体制について、研究分担者とともに研究計画である場合は、研究代表者、研究分担者の具体的な役割（図表を用いる等）、学術的観点からの研究組織の必要性・妥当性及び研究目的との関連性についても述べてください。

また、研究体制の全体像を明らかにするため、連携研究者及び研究協力者（海外共同研究者、科研費への応募資格を有しない企業の研究者、大学院生等（氏名、員数を記入することも可））の役割についても必要に応じて記述してください。

**研究計画・方法（概要）** ※ 研究目的を達成するための研究計画・方法について、簡潔にまとめて記述してください。

本研究のテーマは欧州統合と関連する地域研究の方法に関わるが、この研究を遂行するためには、各分野の専門家が海外調査・研究を進めるとともに、共同のワークショップを(1)「時間的次元」研究班、(2)「空間的次元」研究班、(3)「方法論的次元」研究班について組織し、議論を深めて、その成果を国際シンポジウムの形で公開していく必要がある。4年計画の本研究プロジェクトでは、1年目、3年目に各自の海外調査とワークショップの開催を行い、2年目に中間報告としてその成果を国際シンポジウムに生かし、最終年に最終的な成果を国際シンポジウムで公開するとともに、論集の形でまとめることを予定している。また、本研究の成果は同時に、各大学で開講するヨーロッパ関連科目、四大学共同で行なっているEUコースの教育（単位互換）にも生かされることになる。

①研究の組織

本研究の研究グループを上記課題に即した1.「時間的次元」研究班、2.「空間的次元」研究班、3.「方法論的次元」研究班の3つの研究班に組織し、共同でワークショップを開くとともに各グループでの研究を基に成果を総合するための国際シンポジウムを開催する。

1.「時間的次元」研究班（統括：千葉 敏之）

時代を通底する欧州・欧州統合の理念史的検討（参照、遠藤乾編『ヨーロッパ統合史』、『原典ヨーロッパ統合史』（いずれも名古屋大学出版会、2008）、ドイツ歴史博物館編 *Idee Europa. Entwürfe zum >Ewigen Frieden<* (Berlin, 2003)、諸地域の支配の変遷に関する歴史・文化・社会の研究（例えば参照、ミクロな都市研究の枠組みで時代を超えた「中欧」の歴史的特性について検討した、N.Davies/R.Moorhouse, *Microcosm. Portrait of a Central European City* (London, 2002)）などについて研究会を重ね、以下のような各自の具体的研究テーマに即した時間軸の再検討について検討し、問題を提起する。

- ・千葉 敏之：西洋中世の終末意識と君主の統治理念
- ・大月 康弘：中世キリスト教世界における「ローマ理念」
- ・佐野 好則：神話としての「エウロパ」

2.「空間的次元」研究班（統括：篠原 琢）

西欧国民国家の枠組みからは見えない「中欧」、「北欧」などの空間的な地域性（参照、K.ボミアン『増補ヨーロッパとは何か』（平凡社、2002）、大津留厚編『中央ヨーロッパの可能性——揺れ動くその歴史と社会』（昭和堂、2006））、欧州統合に伴い注目されるかつての境界地域やローカルなアイデンティティのあり方（参照、『二宮宏之著作集』2: 深層のフランス（岩波書店、2011）、原聖『<民族起源>の精神史——ブルターニュとフランス近代』（岩波書店、2003）、U.v.Hirschhausen, *Die Grenzen der Gemeinsamkeit. Deutsche, Letten, Russen und Juden in Riga 1860-1914* (Göttingen, 2006)）などを参考にして、空間認識の問題を各自の具体的な地域の研究テーマに即し検討し、問題を提起する。

- ・工藤 光一：近代フランスのローカル・アイデンティティ
- ・篠原 琢：「中欧」における市民社会と公共圏
- ・大島 美穂：北欧研究から見た国境を超える地域性

研究機関名	東京外国語大学	研究代表者氏名	工藤光一
-------	---------	---------	------



**研究計画・方法（つづき）**

3. 「方法論的次元」研究班（統括：相馬 保夫）

欧州統合の進展に伴う EU 研究の進化（EUIJ 東京コンソーシアムの共同研究『シリーズ EU スタディーズ』1-4）、ネーションやエスニシティ、グローバリズム研究、表象・政治文化研究などの新しい方法論の提起（参照、E.バリバル『ヨーロッパ市民とは誰か—境界・国家・民衆』（平凡社、2008）、水島司編『グローバル・ヒストリーの挑戦』（山川出版社、2008）、J.ルゴフ『歴史・文化・表象—アナル派と歴史人類学』（1999）など）を参考にして、各専門分野・地域の具体的なテーマに即して地域研究の方法論的次元を検討し、問題を提起する。

- ・相馬 保夫：ナショナル・ヒストリーとヨーロッパ地域研究の新地平
- ・杉崎 京太：欧州統合とグローバル資本主義の展開
- ・網谷 龍介：欧州統合と EU 研究の展望
- ・植田 隆子：EU 対外政策の行方

**②年度別の研究計画・方法**

**平成 24 年度**

本研究の初年度に当る平成 24 年度には、まず、7 月までの間に研究に加わる代表者・分担者・連携研究者を集めて 3 研究班の準備会を開催し、研究の組織と今後の進め方について確認をとるとともに、本年の研究計画について決定する。本年度は各研究班からそれぞれ 1~2 名程度が海外調査と研究打合せのために出張する。とくに研究上連絡を取り合い、国際シンポジウムに招聘する研究者・研究機関（欧州大学院、国際文化研究所、中欧大学など）とコンタクトをとることが重要な課題である。その上で、12 月に各班および総括のワークショップを開催し、研究を深めるとともに、今後の研究課題と次年度の研究計画を決定する。また、研究上、国内の EU 研究機関である EUSI を初めとして、他の EUIJ（関西、早稲田、九州）との連携の可能性を模索することも本年度の課題となる。もとより、これらの研究機関は EU 研究に専念しているため、EUIJ 東京を母体とした本研究課題と重複することはない。

**平成 25 年度以降**

**（平成 25 年度）**

本研究の第二年度に当る平成 25 年度には、まず、7 月までの間に各研究班のワークショップを開催し、研究のその後の進捗状況を報告・議論するとともに、1 月に開く国際シンポジウムの計画を確定し、広報に入ることにする予定である。本年度は、国際シンポジウムの準備のため、11 月にもう一度、日本側の報告者・コメンテーターを交えてワークショップを行うことにする。本年度も各研究班からそれぞれ 1~2 名程度が海外調査と研究打合せのために出張する。1 月に開催する予定の国際シンポジウムでは、各研究班で第 1 部、第 2 部、第 3 部を担当し、2 日目に総括討論を行なう計画である。4 年計画の本研究では、この国際シンポジウムは全体の間接報告の性格をもつことになる。

海外の連携研究機関として、現在予定されているのは、欧州大学院（フィレンツェ）、国際文化研究所（クラクフ）や、中欧大学（ブダペスト）その他の研究機関である。

**（平成 26 年度）**

本研究の第三年度に当る平成 26 年度には、7 月と 11 月に各研究班のワークショップを開催し、研究のその後の進捗状況を報告・議論するとともに、次年度 1 月に開く国際シンポジウムの計画を準備する。本年度も各研究班からそれぞれ 1~2 名程度が海外調査と研究打合せのために出張する。今年度も、EUSI を初めとして、他の EUIJ（関西、早稲田、九州）など国内の EU 関連研究機関（欧州大学院、国際文化研究所、中欧大学など）との連携を引き続き進め、ワークショップや国際シンポジウムにおける協力関係をうちたてる。

**研究計画・方法(つづき)**

(平成 27 年度)

本研究の第四年度に当る平成 27 年度には、まず、7 月までの間に各研究版のワークショップを開催し、研究のその後の進捗状況を報告・議論するとともに、1 月に開く国際シンポジウムの計画を確定し、広報に入ることにする予定である。本年度は、国際シンポジウムの準備のため、11 月にもう一度、日本側の報告者・コメンテーターを交えてワークショップを行うことにする。本年度も各研究班からそれぞれ 1~2 名程度が海外調査と研究打合せのために出張する。1 月に開催する予定の国際シンポジウムでは、各研究班で第 1 部、第 2 部、第 3 部を担当し、2 日目に総括討論を行なう計画である。4 年計画の本研究では、この国際シンポジウムは全体の総括報告の性格をもつことになろう。

海外の連携研究機関として、現在予定されているのは、欧州大学院(フィレンツェ)、国際文化研究所(クラブ)や、中欧大学(ブダペスト)その他の研究機関である。

本研究の成果は、研究ワークショップ、国際シンポジウムをふまえて論集の形でまとめることを予定しており、また同時に、各大学で開講するヨーロッパ関連科目、EUIJ 東京コンソーシアムの四大学共同で行なっている EU コースの教育(単位互換)にも生かされることになる。

研究機関名

東京外国語大学

研究代表者氏名

工藤光一

**今回の研究計画を実施するに当たっての準備状況及び研究成果を社会・国民に発信する方法**

本欄には、次の点について、焦点を絞り、具体的かつ明確に記述してください。

- ① 本研究を実施するために使用する研究施設・設備・研究資料等、現在の研究環境の状況
- ② 研究分担者がいる場合には、その者との連絡調整の状況など、研究着手に向けての状況（連携研究者及び研究協力者がいる場合についても必要に応じて記述してください。）
- ③ 本研究の研究成果を社会・国民に発信する方法等

- ① 研究設備等：科研代表者ならびに学内研究分担者は、大学の常置共同研究機関である東京外国語大学海外事情研究所において、また学外研究分担者は各所属機関の研究室で研究を行う。利用できる現有のマイクロフィルムリーダー、パソコン等を活用するが、必要に応じて新規購入する。またこれまでの科研で収集した欧州統合およびヨーロッパ地域研究に関する文献・史料は、上記海外事情研究所に所蔵されているほか、研究分担者の研究室に貸し出されており、それらを利用して研究を行う。
- ② 分担者等との連絡調整：EUIJ 東京コンソーシアムは3年半のプロジェクト終了後も、4大学の協力・連携事業として継続して連絡を取っている。全分担者から承諾書が提出されており、各自の担当テーマに関する研究・調査計画も入手済みである。
- ③ 研究を発信する方法：研究成果を公開の国内ワークショップおよび国際シンポジウムで問うと同時に、最終的には共同研究の成果として論集の形で市販する。こうした手段を通して、学術財産を国際社会および国民に還元することを計画している。

**研究計画最終年度前年度の応募を行う場合の記入事項（該当者は必ず記入してください（公募要領17頁参照））**

本欄には、研究代表者として行っている平成24年度が最終年度に当たる継続研究課題の当初研究計画、その研究によって得られた新たな知見等の研究成果を記述するとともに、当該研究の進展を踏まえ、今回再構築して本研究に応募する理由（研究の展開状況、経費の必要性等）を記述してください。（なお、本欄に記述する継続研究課題の研究成果等は、基盤A・B（一般）-10の「これまでに受けた研究費とその成果等」欄には記述しないでください。）

研究種目名	審査区分	課題番号	研究課題名	研究期間
				平成 年度～ 平成24年度

当初研究計画及び研究成果等

応募する理由

研究業績			
<p>本欄には、研究代表者及び研究分担者が最近5か年間に発表した論文、著書、産業財産権、招待講演のうち、本研究に関連する重要なものを選定し、現在から順に発表年次を過去にさかのぼり、発表年(暦年)毎に線を引いて区別(線は移動可)し、通し番号を付して記入してください。なお、学術誌へ投稿中の論文を記入する場合は、掲載が決定しているものに限ります。</p> <p>また、必要に応じて、連携研究者の研究業績についても記入することができます。記入する場合には、二重線を引いて区別(二重線は移動可)し、研究者毎に、現在から順に発表年次を過去にさかのぼり記入してください(発表年毎に線を引く必要はありません。)</p>			
発表年	研究代表者・分担者氏名	<p>発表論文名・著書名 等</p> <p>(例えば発表論文の場合、論文名、著者名、掲載誌名、査読の有無、巻、最初と最後の頁、発表年(西暦)について記入してください。)</p> <p>(以上の各項目が記載されていれば、項目の順序を入れ替えても可。著者名が多数にわたる場合は、主な著者を数名記入し以下を省略(省略する場合、その頁数と、掲載されている順番を○番目と記入)しても可。なお、研究代表者には二重下線、研究分担者には一重下線、連携研究者には点線の下線を付してください。)</p>	
2011以降	<p>工藤光一</p> <p>杉崎京太</p> <p>佐野好則</p> <p>相馬保夫</p>	<p>1. <u>工藤光一</u>「解説」、『ソシアリテと権力の社会史』(『二宮宏之著作集』第3巻)、岩波書店、頁数未定、2011年12月、査読無。</p> <p>2. <u>杉崎京太</u>「&lt;研究ノート&gt; 制度転換における『制度設定者のレント』をめぐって—制度としての資本主義の体系に関するいくつかの命題—」、『津田塾大学紀要』、43号、141-149頁、2011年、査読無。</p> <p>3. <u>Takamoto Sugisaki</u> &lt;Research Note&gt; A “Dissolving Tetrahedron” Model and the “Libsycti” Model in the Global Financial Crisis: The Market Creator’s Rent in the EU”, 津田塾大学『国際関係学研究』、37号、1-8頁、2011年、査読無。</p> <p>4. <u>佐野好則</u>『ポリテイア』第4巻における正義の定義の背景、『理想』、686号、14-23頁、2011年、査読無。</p> <p>5. <u>佐野好則</u>『イーリアス』第11巻におけるネストールの物語、『西洋古典学研究』、59号、1-11頁、2011年、査読無。</p> <p>6. <u>相馬保夫</u>「離散と抵抗：ズデーテン・ドイツ社会民主党亡命組織(9)」、『東京外国語大学論集』、83号、頁数未定、2011年12月、査読無。</p>	
2010	<p>篠原琢</p> <p>大月康弘</p> <p>杉崎京太</p> <p>相馬保夫</p>	<p>7. <u>篠原琢</u> (他6名、7番目)「チェコ異論派の全体主義論と歴史認識」、メトロポリタン史学会編『いま社会主義を考える—歴史からの眼差し』、桜井書店、239-260頁、2010年、査読無。</p> <p>8. <u>篠原琢</u> (他9名、6番目)「ヨーゼフ寛容令と「非カトリック教徒」—チェコ農村における宗派の問題」、深澤克己、桜井万里子編『友愛と秘密のヨーロッパ社会文化史』、東京大学出版会、2010年、153-194頁。</p> <p>9. <u>大月康弘</u>「ビザンツ国家の行政機構と教会組織—地域統合の制度とイデオロギー」、『歴史学研究』、872号、157-165頁、2010年、査読無。</p> <p>10. <u>杉崎京太</u>「欧州統合と『大西洋回廊』の構築—ドル・ユーロ連結『対環節』の不安定性をめぐって—」、津田塾大学『国際関係学研究』、36号、1-22頁、2010年、査読無。</p> <p>11. <u>相馬保夫</u>「離散と抵抗：ズデーテン・ドイツ社会民主党亡命組織(7)」、『東京外国語大学論集』、第80号、105-122頁、2010年、査読無。</p> <p>12. <u>相馬保夫</u>「離散と抵抗：ズデーテン・ドイツ社会民主党亡命組織(8)」、『東京外国語大学論集』、第81号、243-260頁、2010年、査読無。</p>	
2009	相馬保夫	<p>13. <u>相馬保夫</u>「歴史展示のポリティックス—ドイツ歴史博物館をめぐる論争」、『歴史学研究』、第854号、28-35頁、2009年、査読無。</p> <p>14. <u>立石博高・篠原琢・相馬保夫</u> (他8名、9番目)『国民国家と市民—包摂と排除の諸相』、山川出版社、(第7章「シティズンシップとマイノリティー—戦間期ドイツ・中欧問題の枠組み」、166-188頁を執筆) 2009年、査読無。</p>	
研究機関名	東京外国語大学	研究代表者氏名	工藤光一

研究業績 (つづき)		
発表年	研究代表者 ・分担者氏名	発表論文名・著書名 等
2009	工藤光一 篠原琢 千葉敏之 杉崎京太	<p>15.立石博高・篠原琢・<u>工藤光一</u> (他 8 名、7 番目)『国民国家と市民—包摂と排除の諸相』、山川出版社、(第 5 章「市民社会と「暴力的」農民—19 世紀フランスにおける「農民市民」の誕生」、116-140 頁) 2009 年、査読無。</p> <p>16.立石博高・篠原琢 (他 9 名、11 番目)『国民国家と市民—包摂と排除の諸相』、山川出版社、(第 9 章「歴史と市民社会—チェコ異端派の歴史論」、216-248 頁) 2009 年、査読無。</p> <p>17.立石博高・篠原琢・<u>千葉敏之</u> (他 8 名、3 番目)『国民国家と市民—包摂と排除の諸相』、山川出版社、(第 1 章「神聖なる祖国愛は魂を奮い立たせる」14-39 頁) 2009 年、査読無。</p> <p>18.<u>杉崎京太</u>「『大転換』再考—『溶解する四面体』モデルとの関連で—」、津田塾大学『国際関係学研究』、35 号、1-11 頁、2009 年、査読無。</p>
2008	篠原琢 千葉敏之 杉崎京太 工藤光一 佐野好則	<p>19.近藤和彦・篠原琢 (他 15 名、16 番目)『歴史的ヨーロッパの政治社会』、山川出版社、(第 16 章「祭典熱の時代—つくられたチェコ性によせて」、553-592 頁を執筆) 2008 年、査読無。</p> <p>20.<u>篠原琢</u> (他 9 名、5 番目)「地域概念の構築性—中央ヨーロッパ論の構造」、家田修・北海道大学スラブ研究センター編『講座 スラブ・ユーラシア学 第一巻 開かれた地域研究へ：中域圏と地球化』、講談社、2008 年、119-141 頁、査読無。</p> <p>21.近藤和彦・<u>千葉敏之</u> (他 15 名、1 番目)『歴史的ヨーロッパの政治社会』、山川出版社、(第 1 章「準えられる王—初期中世ヨーロッパの政治社会」、3-37 頁を執筆) 2008 年、査読無。</p> <p>22.<u>千葉敏之</u>「幽閉と「政治的無害化」の作法—「間」の歴史学から見た中世ポーランド」、『東欧史研究』、30 号、3-19 頁、2008 年、査読無。</p> <p>23.<u>杉崎京太</u>「グローバル資本主義調整の現局面と人倫の経済—金融における主体性確立のための序説—」、津田塾大学国際関係研究所『総合研究 No.5 &lt;地域&gt;とアクター』、1~13 頁、2008 年、査読無。</p> <p>24.<u>Takamoto Sugisaki</u> “Convergence and Divergence of Business Cycles in European Integration: Reconsidering the Meaning of ‘Economic Integration’ in the Context of Globalisation”, 津田塾大学『国際関係学研究』、34 号、25-33 頁、2008 年、査読無。</p> <p>25.<u>杉崎京太</u>「&lt;研究ノート&gt;グローバル化と『制度設定者のレント』をめぐる諸問題—いくつかの命題をめぐる—」、『津田塾大学紀要』、第 40 号、69~78 頁、2008 年、査読無。</p> <p>26.<u>工藤光一</u>「1851 年蜂起と農村民衆の「政治」—バス=プロヴァンス地方ヴァール県の事例を中心に」、『Quadrante』、10 号、255-303 頁。</p> <p>27.<u>佐野好則</u>「書評 Elizabeth Irwin, Solon and Early Greek Poetry: The Politics of Exhortation」、『西洋古典学研究』、56 号、115-117 頁、2008 年、査読無。</p>

研究業績(つづき)				
発表年	研究代表者・分担者氏名	発表論文名・著書名 等		
2008	相馬保夫	28. 相馬保夫「離散と抵抗(4)ズデーテン・ドイツ社会民主党亡命組織」、『東京外国語大学論集』、77号、153-172頁、2008年、査読無。 29. 相馬保夫「戦間期ドイツ・中欧におけるマイノリティ問題の射程—研究の現状」、『東京外国語大学論集』、76号、227-239頁、2008年、査読無。		
2007	相馬保夫	30. 田村栄子・星乃治彦・相馬保夫(他3名、3番目)『ヴァイマル共和国の光芒—ナチズムと近代の相克』、昭和堂、2007年(「民族自決とマイノリティ—戦間期中欧民族問題の原点」、76-116頁を執筆)、査読無。 相馬保夫「離散と抵抗: ヴェンツェル・ヤークシュ覚書(3)」、『東京外国語大学論集』、75号、153-170頁、2007年、査読無。		
	篠原琢	31. Taku SHINOHARA, "Historical Consciousness and Civil Ethics: Debating the 'Painful Past' and Reviving 'Central Europe' among Dissident Circles", <i>Regions in Central and Eastern Europe - Past and Present</i> , Slavic Research Center, Hokkaido University, pp.231-253, March, 2007, 査読無。		
	大月康弘	32. 大月康弘「寄進と再分配の摂理—キリスト教ローマ帝国の生成」、『歴史学研究』、833号、2-12頁、2007年、査読無。		
	工藤光一	33. 工藤光一「二宮史学にとってのフランス現代歴史学」、『ふらんぼー』(東京外国語大学フランス語研究室論集)、32・33合併号、23-49頁、2007年、査読無。		
	千葉敏之	34. 千葉敏之「ヨーロッパ中世—中東欧・北欧」、『史学雑誌』、2006年の歴史学界—回顧と展望』、116編5号、325-329頁、2007年、査読無。		
	杉崎京太	35. 杉崎京太(他9名、10番目)第10章「景気循環の収斂と乖離の基礎課程—グローバル化と欧州統合の現局面—」小川英治編『EUスタディーズ2 経済統合』、勁草書房、241-274頁、2007年、査読無。 36. 杉崎京太「研究ノート『グローバルイゼーション』の今日的意味をめぐって(10)」、津田塾大学『国際関係研究所報』、第42号、14-20頁、2007年、査読無。		
連携研究者氏名 (所属研究機関・部局・職)		発表論文名・著書名 等 (研究代表者及び研究分担者の研究業績として上欄に記載したものは記載しないでください。)		
植田 隆子 (国際基督教大学・教養学部・教授)		1. 植田隆子「リスボン条約とEUの対外関係(2009年12月—2011年1月)」、『日本EU学会年報』、31号、60-80頁、2011年、査読有。 2. 植田隆子「欧州連合(EU)の大量破壊兵器(WMD)不拡散政策(1)(2)(3)、それぞれ『軍縮問題資料』349号、351号、352号に掲載、24-27頁、28-33頁、28-35頁、2009年12月、2010年3月・4月、査読無。 3. 植田隆子(他8名、1番目)「米欧関係の変容と日本—政治安全保障協力の視点から」、森井裕一編『地域統合とグローバル秩序』信山社、2010年、3-26頁、査読無。		
大島 美穂 (津田塾大学・学芸学部国際関係学科・教授)		4. 大橋美穂、加納弘勝編『「国際化」する地域研究』、文化書房博文社、2009年、査読無。 5. 大橋美穂(他11名)「はじめに」、「北欧諸国—EUのつまずきの石か、新たな発信源か」、大島美穂編『EUスタディーズ3—国家・地域・民族』、勁草書房、2007年、ii-vi頁、73-90頁、査読無。		
網谷 龍介 (津田塾大学・学芸学部国際関係学科・教授)		6. 網谷龍介・伊藤武・成廣孝編『ヨーロッパのデモクラシー』ナカニシヤ出版、2009年、計450頁、査読無。 7. 網谷龍介(他8名、9番目)「テクノクラシーは社会的ヨーロッパの夢を見るか?」、宮本太郎編『働く—雇用と社会保障の政治学』、風行社、2011年、264-295頁、査読無。 8. 網谷龍介(他7名、3番目)『「社会モデル」言説の定着とその制度的基盤—EUレベル専門家ネットワークの機能—』、平島健司編『国境を越える政策実験・EU』、東京大学出版会、2008年、61-94頁、査読無。 9. 網谷龍介「職業外交官への愛情と外交制度分析の欠如と—網谷雄一『外交』(有斐閣、2007年)を読む—」、『国際学研究』、第33号、2008年、89-97頁、査読無。		
研究機関名	東京外国語大学		研究代表者氏名	工藤光一

これまでに受けた研究費とその成果等

本欄には、研究代表者及び研究分担者がこれまでに受けた研究費（科研費、所属研究機関より措置された研究費、府省・地方公共団体・研究助成法人・民間企業等からの研究費等。なお、現在受けている研究費も含む。）による研究成果等のうち、本研究の立案に生かされているものを選定し、科研費とそれ以外の研究費に分けて、次の点に留意し記述してください。

- ① それぞれの研究費毎に、研究種目名（科研費以外の研究費については資金制度名）、期間（年度）、研究課題名、研究代表者又は研究分担者の別、研究経費（直接経費）を記入の上、研究成果及び中間・事後評価（当該研究費の配分機関が行うものに限る。）結果を簡潔に記述してください。（平成22年度又は平成23年度の科研費の研究進捗評価結果がある場合には、基盤A・B（一般）－11「研究計画と研究進捗評価を受けた研究課題の関連性」欄に記述してください。）
- ② 科研費とそれ以外の研究費は線を引いて区別して記述してください。

科学研究費補助金

・基盤研究(A) (2002～2005)

「近世・近代のヨーロッパにおける政治社会」

研究分担者：篠原琢、千葉敏之（研究代表者・近藤和彦）、直接経費38,200千円

研究成果：『歴史的ヨーロッパの政治社会』山川出版社、2008年、千葉敏之：第1章「準えられる王—初期中世ヨーロッパの政治社会」、篠原琢：第16章「祭典熱の時代—つくられたチェコ性によせて」

・基盤研究(A) (2005-2007)

「ヨーロッパ市民社会と辺境／マイノリティに関する歴史的研究」

研究分担者：相馬保夫（代表者・立石博高）、直接経費19,500千円

研究成果：『ヨーロッパ市民社会と辺境／マイノリティに関する歴史的研究』日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究(A)・研究成果報告書、2008年、全294頁

立石博高・篠原琢編『国民国家と市民 包摂と排除の諸相』山川出版社、2009

千葉敏之：第1章「神聖なる祖国愛は魂を奮い立たせる」、工藤光一：第5章「市民社会と「暴力的」農民—19世紀フランスにおける「農民市民」の誕生」、相馬保夫：第7章「シティズンシップとマイノリティー—戦間期ドイツ・中欧問題の枠組み」、篠原琢：第9章「歴史と市民社会—チェコ異端派の歴史論」

上記の三点の研究において、近世・近現代ヨーロッパにおける地域統合の可能性を追求し、その問題の重要性が認識された。

・基盤研究 (A) (2006-2009)

「グローバル化状況における国民的・間国民的「想起の文化」の総合的研究」

研究分担者・工藤光一、篠原琢（研究代表者・岩崎稔）直接経費 31,900 千円

・基盤研究 (A) (2010-2011)

「近現代世界の自画像形成に作用する《集合的記憶》の学際的研究」

研究分担者：工藤光一、篠原琢（研究代表者・岩崎稔）直接経費 13,200 千円

・基盤研究 (A) (2011)

「歴史認識の変容と文化遺産・景観の思想に関する比較研究」

研究分担者：工藤光一、相馬保夫、篠原琢、千葉敏之（研究代表者・立石博高）

研究成果：上記三点の研究では記憶と空間認識について、および文化遺産や景観認識と思想について検討したが、それらを現代における国民国家統合という実態を把握するための空間的認識方法論まで高める必要が生じた。

・基盤研究 (C) (2005-2007)

「中世キリスト世界の秩序形成原理とローマ皇帝権—世界帝国の理念と現実」

研究代表者：大月康弘、直接経費 3,300 千円

・基盤研究 (B) (2006-2008)

「中世ヨーロッパにおける権力構造とアイデンティティ—複合」

研究分担者：大月康弘(研究代表者・渡辺節夫)、直接経費 13,000 千円

・基盤研究 (B) (2010-2011)

「ヨーロッパ史における政治と宗教のダイナミズムと国家的秩序の形成」

研究分担者：大月康弘、直接経費 9,800 千円

研究成果：『帝国と慈善 ビザンツ』創文社、2005年（2006年度日経図書文化賞受賞）

上記三点の研究において、「近代化」を経てなお「ヨーロッパ」世界に存在するEU統合に向かって作用する思想的、制度的基層をビザンツ帝国の社会経済構造・思想文化および「中世キリスト教世界」とその外交交渉に見出す作業を行い、その成果の一つとして、上記著作を公表した。

**研究計画と研究進捗評価を受けた研究課題の関連性**

- ・本欄には、本応募の研究代表者が、平成22年度又は平成23年度に、「特別推進研究」、「基盤研究(S)」、「若手研究(S)」又は「学術創成研究費」の研究代表者として、研究進捗評価を受けた場合に記述してください。
- ・本欄には、研究計画と研究進捗評価を受けた研究課題の関連性（どのような関係にあるのか、研究進捗評価を受けた研究を具体的にどのように発展させるのか等）について記述してください。

該当せず。

研究機関名

東京外国語大学

研究代表者氏名

工藤光一



**人権の保護及び法令等の遵守への対応**（公募要領4頁参照）

本欄には、研究計画を遂行するにあたって、相手方の同意・協力を必要とする研究、個人情報の取り扱いの配慮を必要とする研究、生命倫理・安全対策に対する取組を必要とする研究など法令等に基づく手続きが必要な研究が含まれている場合に、どのような対策と措置を講じるのか記述してください。

例えば、個人情報を伴うアンケート調査・インタビュー調査、提供を受けた試料の使用、ヒト遺伝子解析研究、組換えDNA実験、動物実験など、研究機関内外の倫理委員会等における承認手続きが必要となる調査・研究・実験などが対象となります。

なお、該当しない場合には、その旨記述してください。

該当せず。

**研究経費の妥当性・必要性**

本欄には、「研究計画・方法」欄で述べた研究規模、研究体制等を踏まえ、次頁以降に記入する研究経費の妥当性・必要性・積算根拠について記述してください。また、研究計画のいずれかの年度において、各費目（設備備品費、旅費、人件費・謝金）が全体の研究経費の90%を超える場合及びその他の費目で、特に大きな割合を占める経費がある場合には、当該経費の必要性（内訳等）を記述してください。

本研究は、東京外国語大学の海外事情研究所を拠点に行なう共同研究である。本研究所は安定した研究体制を有し、本研究推進にあたって設備面での支援の役割を十分に果たすことができる。海外事情研究所の実務室と会議室では、翻訳・編集作業を行うパソコン、収集した史資料を読むマイクロリーダー、4年間の研究のために購入する文献を管理するための書棚も、各種のプロジェクト用設備としてあらかじめ配置されている。

今回備品費から購入するノート・パソコンは、各大学の研究者が欧州統合と地域研究に関する資料収集・海外調査用のものであり、4大学に一台ずつ配分した。また文献も同様4大学で購入できるように配分した。消耗品費は編集・翻訳作業に必要なパソコン・ソフトを購入する。

外国旅費は、欧州各地域における資料収集のための調査、国際シンポジウム開催のための国外からの研究者招聘用旅費、国内旅費は国内でのワークショップ・シンポジウムおよび準備会・研究打合せのための費用、国内の専門家の招聘費用等を含めた。尚、航空運賃はディスカウント運賃で計算され、できるだけ多くの機会を設けられるようにした。

謝金は、国際シンポジウム・国内ワークショップでの通訳や専門的知識の提供に対するものである。海外事情研究所は、大学の常置研究所としての役割を果たすため、英・独・仏・西語などの読解能力、運用能力を保持する大学院生・研究員が各人週当たり2～3日程度出勤している。本研究を遂行するための海外研究者、国内研究者とのリエゾン、ワークショップ、国際シンポジウムなどを円滑に行ない、研究成果を適宜公表していくために、かれらの協力を得ていく予定である。

雑費は、本研究で必要となる会議費や翻訳・校閲料にあてた。なお、シンポジウムなどの開催費用（招聘旅費、翻訳・通訳謝金等）は併せて研究代表者に配分してある。

基盤A・B(一般) - 13  
(金額単位:千円)

設備備品費の明細			消耗品費の明細	
[記入に当たっては、基盤研究(A・B)(一般)研究計画調書作成・記入要領を参照してください。]			[記入に当たっては、基盤研究(A・B)(一般)研究計画調書作成・記入要領を参照してください。]	
年度	品名・仕様 (数量×単価)(設置機関)	金額	品名	金額
24	欧州統合と地域研究関連図書 (1セット×300)(東京外国語大学)	300	パソコン関連ソフト	100
	欧州統合と地域研究関連図書 (1セット×200)(津田塾大学)	200		
	欧州統合と地域研究関連図書 (1セット×200)(一橋大学)	200		
	欧州統合と地域研究関連図書 (1セット×200)(国際基督教大学)	200		
	ノート型パソコン(SONY VAIO ZVPCZ21AJ)(1×200)(東京外国語大 学)	200		
	ノート型パソコン(SONY VAIO ZVPCZ21AJ)(1×200)(津田塾大学)	200		
	ノート型パソコン(SONY VAIO ZVPCZ21AJ)(1×200)(一橋大学)	200		
	ノート型パソコン(SONY VAIO ZVPCZ21AJ)(1×200)(国際基督教大 学)	200		
	計	1700	計	100
25	欧州統合と地域研究関連図書 (1セット×200)(東京外国語大学)	200	パソコン関連ソフト	100
	欧州統合と地域研究関連図書 (1セット×100)(津田塾大学)	100		
	欧州統合と地域研究関連図書 (1セット×100)(一橋大学)	100		
	欧州統合と地域研究関連図書 (1セット×100)(国際基督教大学)	100		
		計		
26	欧州統合と地域研究関連図書 (1セット×100)(東京外国語大学)	100	パソコン関連ソフト	100
	欧州統合と地域研究関連図書 (1セット×100)(津田塾大学)	100		
	欧州統合と地域研究関連図書 (1セット×100)(一橋大学)	100		
	欧州統合と地域研究関連図書 (1セット×100)(国際基督教大学)	100		
		計		
27	欧州統合と地域研究関連図書 (1セット×100)(東京外国語大学)	100	パソコン関連ソフト	100
	欧州統合と地域研究関連図書 (1セット×100)(津田塾大学)	100		
	欧州統合と地域研究関連図書 (1セット×100)(一橋大学)	100		
	欧州統合と地域研究関連図書 (1セット×100)(国際基督教大学)	100		
		計		
研究機関名	東京外国語大学		研究代表者氏名	工藤光一

基盤A・B（一般）－14

（金額単位：千円）

旅費等の明細（記入に当たっては、基盤研究（A・B）（一般）研究計画調書作成・記入要領を参照してください。）												
年度	国内旅費		外国旅費		人件費・謝金		その他					
	事項	金額	事項	金額	事項	金額	事項	金額				
24	ワークショップ 招聘用旅費 (2人×2日間)	150	海外打合せ・調 査費(4人×7日 間×1回)	1600	講演者謝金 (2人×2時間)	40	会議費(会議 費・菓子代・食 事代等)	100				
	研究打合せ (10人×1日)	100			通訳(3人×12 時間)	500			翻訳・校閲(1 人×20頁)	200		
					専門的知識の 提供(3人×30 時間)	120						
	計	250			計	1600			計	660	計	300
25	ワークショップ 招聘用旅費 (2人×2日間)	130	国際シンポジ ウム海外研究 者招聘(3人×10 日間×1回)	1800	講演者謝金 (7人×2時間)	140	会議費(会議 費・菓子代・食 事代等)	300				
	国際シンポジ ウム国内研究 者(2人×2日 間)	100			通訳(5人×10 時間)	800			翻訳・校閲(3 人×20頁)	600		
	研究打合せ (10人×1日)	100			海外打合せ・調 査費(3人×7日 間×1回)	1200			専門的知識の 提供(6人×30 時間)	240		
	計	330			計	3000			計	1180	計	900
26	ワークショップ 招聘用旅費 (2人×2日間)	140	海外打合せ・調 査費(4人×7日 間×1回)	1600	講演者謝金 (2人×2時間)	40	会議費(会議 費・菓子代・食 事代等)	100				
	打合せ(準備 会) (10人×1日)	100			通訳(3人×12 時間)	500			翻訳・校閲(1 人×20頁)	200		
					専門的知識の 提供(3人×30 時間)	120						
	計	240			計	1600			計	660	計	300
27	ワークショップ 招聘用旅費 (2人×2日間)	120	国際シンポジ ウム海外研究 者招聘(3人×10 日間×1回)	1800	講演者謝金 (7人×2時間)	140	会議費(会議 費・菓子代・食 事代等)	400				
	国際シンポジ ウム国内研究 者(2人×2日 間)	160			通訳(5人×10 時間)	800			翻訳・校閲(3 人×20頁)	600		
	研究打合せ (10人×1日)	100			海外打合せ・調 査費(3人×7日 間×1回)	1200			専門的知識の 提供(6人×30 時間)	240		
	計	380			計	3000			計	1180	計	1000

**研究費の応募・受入等の状況・エフォート**

本欄は、第2段審査（合議審査）において、「研究資金の不合理な重複や過度の集中にならず、研究課題が十分に遂行し得るかどうか」を判断する際に参照するところですので、本人が受け入れ自ら使用する研究費を正しく記載していただく必要があります。本応募課題の研究代表者の応募時点における、(1) 応募中の研究費、(2) 受入予定の研究費、(3) その他の活動、について、次の点に留意し記入してください。なお、複数の研究費を記入する場合は、線を引いて区別して記入してください。具体的な記載方法等については、研究計画調査作成・記入要領を確認してください。

- ① 「エフォート」欄には、年間の全仕事時間を100%とした場合、そのうち当該研究の実施等に必要となる時間の配分率(%)を記入してください。
- ② 「応募中の研究費」欄の先頭には、本応募研究課題を記入してください。
- ③ 科研費の「新学術領域研究（研究領域提案型）」又は「特定領域研究」にあつては、「計画研究」、「公募研究」の別を記入してください。
- ④ 所属研究機関内で競争的に配分される研究費についても記入してください。

**(1) 応募中の研究費**

資金制度・研究費名（研究期間・配分機関等名）	研究課題名（研究代表者氏名）	役割（代表・分担の別）	平成24年度の研究経費（期間全体の額） (千円)	エフォート(%)	研究内容の相違点及び他の研究費に加えて本応募研究課題に応募する理由 (研究代表者(又は拠点リーダー等)のようにプログラム全体の研究費の受入研究者)の場合は、研究期間全体(又はプログラム全体)の受入額を記入すること)
【本応募研究課題】 基盤研究(B)（一般） (H24～H27)	欧州統合と地域研究の方法的革新：時間的・空間的・方法論的次元（工藤光一）	代表	2310 (10780)	15	研究期間全体の直接経費の総額：19,980千円

研究機関名	東京外国語大学	研究代表者氏名	工藤光一
-------	---------	---------	------

研究費の応募・受入等の状況・エフォート（つづき）					
（2）受入予定の研究費					
資金制度・研究費名（研究期間・配分機関等名）	研究課題名（研究代表者氏名）	役割（代表・分担の別）	平成24年度の研究経費（期間全体の額）（万円）	エフォート（%）	研究内容の相違点及び他の研究費に加えて本応募研究課題に応募する理由（研究代表者（又は拠点リーダー等）のようにプログラム全体の研究費の受入研究者）の場合は、研究期間全体（又はプログラム全体の）受入額を記入すること）
基盤研究（A）（一般） （H22～H26）	近現代世界の自画像形成に作用する《集合的記憶》の学際的研究（岩崎稔）	分担	300 （1500）	5	本応募研究課題は欧州統合と地域研究を方法論的に追究するものであり、岩崎稔を代表とする科研での役割はフランス近現代の集合的記憶を通じて、政治的正当性の調達を研究するものであり、本応募課題と直接的な関係はない。
基盤研究（A）（一般） （H23～H26）	歴史認識の変容と文化遺産・景観の思想に関する比較研究（立石博高）	分担	300 （1200）	10	本応募研究課題は欧州統合と地域研究を方法論的に追究するものであるが、立石博高を代表とする科研ではフランスにおける文化遺産についての行政政策を研究しており、本応募課題と直接的な関係はない。
（3）その他の活動 【上記の応募中及び受入予定の研究費による研究活動以外の職務として行う 研究活動や教育活動等のエフォートを記入してください。】				70	/
合 計 （上記（1）、（2）、（3）のエフォートの合計）				100 （%）	

## Report of Activity under the EUIJ Tokyo Project

Title of the Activity:	A Courtesy Call from the International Cultural Centre (ICC), Krakow, Poland  Project no. TUFS2011(2H)-2
Purpose of the Activity:	Scientific research in various fields on EU's eastward enlargement and the common heritage
Description/Program:	With a view to promote research activities between ICC and EUIJ Tokyo, the representatives from ICC paid a courtesy call to TUFS, Organizer of the International Itinerant Seminar - The Common Heritage of the Eastern Borderlands of Europe – for EUIJ Tokyo.
Date(s):	2 March, 2012
Universities/Person(s) involved:	International Cultural Centre (ICC) : Jacek Purchla, Director of ICC Barbara Szyper, Secretary of the Academy of Heritage  TUFS: Ikuo Kameyama, President Koji Miyazaki, Executive Director Hirotaka Tateishi, Vice President Taku Shinohara, Professor, Institute of Global Studies Keiki Sakuma, Chief, Research Promotion Division
Place of the Activity:	Tokyo University of Foreign Studies
Financial resources:	Grants-in-Aid for Scientific Research <KAKENHI>, the Japan Society for the Promotion of Science
Results:	
Future perspectives:	The International Itinerant Seminar - The Common Heritage of the Eastern Borderlands of Europe, Part III to Belarus is to be carried out from 23 August to 1 September, 2012.

# The International Itinerant Seminar

## 25 August – 1 September 2012

### 25 Aug. (Sat.)

Kazimierz Dolny (Poland) – Hrodna

12.00: Departure from Kazimierz Dolny (Lunch on the bus)

18.00-19.00: Crossing the border at Kuźnica Białostocka

**(hotel „Slavia”, Mołodeżnaja 1)**

### 26 Aug. (Sun.) - 27 Aug. (Mon.)

Navahrudak

**(Guest House of The Sisters of the Holy Family of Nazareth,  
Pierwomajskaja 26)**

### 28 Aug. (Tue.) - 29 Aug. (Wed.)

Minsk

**(hotel „Jubilejnaja”, Prospekt Pobieditelej 19)**

### 30 Aug. (Thur.)

**(Guest House „Weres”, Казловічы)**

### 31 Aug. (Fri.)

Brest

**(Hotel „Westa”, Nadzieży Krupskiej 16)**

### 1 Sep. (Sat.)

Brest – Warasza - Krakow

12.00-13.00: Terespol

12.30: Departure to Warszawa

16.00/16.30: Arrive in Warszawa

17.30-18.00: Departure from Warszawa

23.00: Arrive in Krakow

\*\*\*\*\*

Organizer:

Tokyo University of Foreign Studies

Prof. of Polish Culture, Tokimasa Sekiguchi

Prof. of Czech History, Taku Shinohara

Participants: 20 Scholars from various universities

Transportation:

Bus hired by International Culture Center in Krakow

<http://www.mck.krakow.pl/en>

Person in charge & Guide: Ms Barbara Szyper (ICC)

[b.szyper@mck.krakow.pl](mailto:b.szyper@mck.krakow.pl)

## Report of Activity under the EUIJ Tokyo Project

Title of the Activity:	Credit Exchange  Project no. ICU2011(2H)-1
Purpose of the Activity:	To carry out an educational program under Article 3 of the EUIJ Tokyo Consortium Agreement
Description/Program:	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Total of 70 students registered in 15 courses based on the agreement. (See attached documents)</li> <li>2. All universities selected the Europe Research Course offered for exchange of credit. (See attached documents)</li> </ol>
Date(s):	October, 2011 – March, 2012
Universities/Person(s) involved:	The four member universities of the EUIJ Tokyo Consortium
Place of the Activity:	The four member universities of the EUIJ Tokyo Consortium
Financial resources:	Each university's budget
Results:	The number of registration was increased in the new EUIJ.
Future perspectives:	In 2012, new exchange programme for subjects to research on Europe has started in which repertory of subjects extends to the subjects to enhance the understanding Europe.



## Credit Transfer

	Course Title	Hitotsubashi	ICU	TUFS	Tsuda	Total
Hitotsubashi	Introduction to the EU EU入門	-	0	5	5	10
Hitotsubashi	EU Law EU法	-	0	3	1	4
Hitotsubashi	Firm and Market in EU EUにおける企業と市場	-	0	4	0	4
ICU	Politics and International Relations in Europe* 欧州の政治と国際関係*	1	-	2	1	4
TUFS	Comparative and International Education 比較・国際教育学	1	0	-	2	3
TUFS	Polish (Basic2) ポーランド語 基礎2	0	0	-	3	3
TUFS	European International RelationsB: EU Study B ヨーロッパ国際関係論/EU論	2	0	-	4	6
Tsuda	Environmental Problems in the EU EUと環境問題	2	0	1	-	3
Tsuda	Introduction on the European Union EU特論 I	5	1	2	-	8
Tsuda	Social Security in the European Union EU特論 II	3	1	0	-	4
Tsuda	Economic History of European Integration 欧州統合経済史	5	1	0	-	6
Tsuda	East European Studies 東欧研究	2	0	0	-	2
Tsuda	Northern Europe and the EU 北欧とEU	1	0	2	-	3
Tsuda	EU Special Lecture a EU特別講義a	0	4	0	-	4
Tsuda	EU Special Lecture b EU特別講義b	0	6	0	-	6
	Total	22	13	19	16	70

\* Offered in Winter term (from December)

2012年度(一橋:夏学期/冬学期、ICU:春学期/秋学期/冬学期、東外大:1学期/2学期、津田塾:前期/後期)

大学名	EU関係授業科目、 ヨーロッパ研究 関連授業科目の別	科目名(和・英)		教員名	曜日・時限	学期
一橋	EU関係授業科目	EU入門	Introductory to the EU	小川英治、万代勝信、岡室博之、 大月康弘、川崎恭治、秋山晋吾、 田中拓道、松塚ゆかり	金曜日(1限) 8:50~10:20	夏学期
一橋	EU関係授業科目	Euro-Asia Summer School	Euro-Asia Summer School	小川英治	水曜日(5限) 16:20~17:50	夏学期 (一橋大、津田塾大の 学生のみ履修可)
一橋	EU関係授業科目	EU法	EU Law	中西優美子	月曜日(3限) 12:55~14:25	夏学期
一橋	EU関係授業科目	西洋中世法史	History of Medieval European law	藪本 将典	水曜日(2限) 10:35~12:05	夏学期
一橋	EU関係授業科目	EUにおける企業と市場	Firm and Market in EU	小川英治、清水(洋)、 山下裕子、佐々木隆志	金曜日(1限) 8:50~10:20	冬学期
一橋	EU関係授業科目	西洋近代法史	Legal History of Modern Europe	屋敷 二郎	金曜日(3限) 12:55~14:25	冬学期
一橋	ヨーロッパ研究関連授業科目	経済史入門		大月 康弘	火曜日(4限) 14:40~16:10	夏学期
一橋	ヨーロッパ研究関連授業科目	社会思想史		森村 敏己	月曜日(4限) 14:40~16:10	夏学期
一橋	ヨーロッパ研究関連授業科目	社会史史料講読Ⅲ		秋山 晋吾	月曜日(2限) 10:35~12:05	夏学期
一橋	ヨーロッパ研究関連授業科目	比較政治		田中 拓道	金曜日(4限) 14:40~16:10	冬学期
一橋	ヨーロッパ研究関連授業科目	ヨーロッパ社会史総論Ⅲ		秋山 晋吾	木曜日(2限) 10:35~12:05	冬学期
ICU	EU関係授業科目	欧州の政治と国際関係	Politics and International Relations in Europe	植田隆子	木曜日(5,6限) 15:10~17:40	冬学期
ICU	ヨーロッパ研究関連授業科目	西洋美術概説	Introduction to Western Art	伊藤亜紀	火曜日(3限) 11:30-12:40 木曜日(2,3限) 10:10-12:40	冬学期
ICU	ヨーロッパ研究関連授業科目	西洋近代美術	Art of the West in the 16th-18th Centuries	伊藤亜紀	火曜日(1,2限) 8:50-11:20 木曜日(1限) 8:50-10:00	冬学期
ICU	ヨーロッパ研究関連授業科目	西洋中世美術	Medieval Art of the West	伊藤亜紀	火曜日(1,2限) 8:50-11:20 木曜日(1限) 8:50-10:00	秋学期
ICU	ヨーロッパ研究関連授業科目	近代美術Ⅰ	Modern Art I	新實五穂	月曜日(5,6,7限) 15:10-19:00	秋学期
ICU	ヨーロッパ研究関連授業科目	西洋教育史	History of Western Education	立川明	火曜日(1,2限) 8:50-11:20	秋学期
ICU	ヨーロッパ研究関連授業科目	西洋史(イギリス)Ⅰ	History of Europe (Britain) I	那須敬	火曜日(1,2限) 8:50-11:20 木曜日(1限) 8:50-10:00	春学期
ICU	ヨーロッパ研究関連授業科目	西洋史(フランス)Ⅱ	History of Europe (France) II	高澤紀恵	火曜日(1,2限) 8:50-11:20 木曜日(1限) 8:50-10:00	秋学期
ICU	ヨーロッパ研究関連授業科目	ヨーロッパ文化史	Cultural History of Europe	那須敬	水曜日(*4限) 13:15-15:00 金曜日(*4限) 13:15-15:00	冬学期
ICU	ヨーロッパ研究関連授業科目	ヨーロッパ経済史	Economic History of Europe	岩間敏彦	木曜日(5,6,7限) 15:10-19:00	春学期

2012年度(一橋:夏学期/冬学期、ICU:春学期/秋学期/冬学期、東外大:1学期/2学期、津田塾:前期/後期)

大学名	EU関係授業科目、 ヨーロッパ研究 関連授業科目の別	科目名(和・英)		教員名	曜日・時限	学期
ICU	ヨーロッパ研究関連授業科目	東欧史	History of Eastern Europe	篠原琢	金曜日(5,6,7限) 15:10-19:00	春学期
ICU	ヨーロッパ研究関連授業科目	ヨーロッパ社会史	Social History of Europe	高澤紀恵	水、金曜日(*4限) 13:15-15:00	春学期
ICU	ヨーロッパ研究関連授業科目	ロシアの政治と国際関係	Politics and International Relations in Russia	宮崎英隆	木曜日(2,3限) 10:10-12:40	冬学期
ICU	ヨーロッパ研究関連授業科目	英語史 I	History of the English Language I	守屋靖代	水、金曜日(*4限) 13:15-15:00	秋学期
ICU	ヨーロッパ研究関連授業科目	英語史 II	History of the English Language II	守屋靖代	水、金曜日(*4限) 13:15-15:00	冬学期
ICU	ヨーロッパ研究関連授業科目	英文学史 I	History of English Literature I	SIMONS, CHRISTOPHER E.J.	月、木曜日(*4限) 13:15-15:00	秋学期
ICU	ヨーロッパ研究関連授業科目	英文学史 II	History of English Literature II	生駒夏美	月、水、金曜日(3限) 11:30-12:40	冬学期
ICU	ヨーロッパ研究関連授業科目	ドイツ文学史 I	History of German Literature I	赤司英一郎	木曜日(5,6,7限) 15:10-19:00	秋学期
ICU	ヨーロッパ研究関連授業科目	フランス文学への招待	Invitation to French Literature	岩切正一郎	水曜日(5,6,7限) 15:10-19:00	秋学期
ICU	ヨーロッパ研究関連授業科目	西洋古典文学 I	Classical Literature I	平田正吾	金曜日(5,6限) 15:10-17:40	秋学期
ICU	ヨーロッパ研究関連授業科目	西洋古典文学 IV	Classical Literature IV	佐野好則	木曜日(5,6限) 15:10-17:40	冬学期
ICU	ヨーロッパ研究関連授業科目	ルネサンス英文学	Renaissance English Literature	松田隆美	金曜日(5,6,7限) 15:10-19:00	春学期
ICU	ヨーロッパ研究関連授業科目	シェイクスピア I	Shakespeare I	SIMONS, CHRISTOPHER E.J.	火曜日(1,2限) 8:50-11:20 木曜日(1限) 8:50-10:00	秋学期
ICU	ヨーロッパ研究関連授業科目	シェイクスピアと17-18世紀英文学	Shakespeare and 17th-18th C. English Literature	SIMONS, CHRISTOPHER E.J.	月、木曜日(*4限) 13:15-15:00	冬学期
ICU	ヨーロッパ研究関連授業科目	フランス文学 II	French Literature II	岩切正一郎	月、水、金曜日(2限) 10:10-11:20	春学期
ICU	ヨーロッパ研究関連授業科目	フランス文学 III	French Literature III	岩切正一郎	月、水、金曜日(3限) 11:30-12:40	秋学期
ICU	ヨーロッパ研究関連授業科目	フランス文学 IV	French Literature IV	千々岩靖子	水曜日(5,6,7限) 15:10-19:00	冬学期
ICU	ヨーロッパ研究関連授業科目	フランス文学 VII	French Literature VII	長谷川久礼満	金曜日(5,6,7限) 15:10-19:00	秋学期
ICU	ヨーロッパ研究関連授業科目	フランス文学 VIII	French Literature VIII	長谷川久礼満	金曜日(5,6,7限) 15:10-19:00	冬学期
ICU	ヨーロッパ研究関連授業科目	ドイツ文学 IV	German Literature IV	赤司英一郎	木曜日(5,6,7限) 15:10-19:00	春学期
ICU	ヨーロッパ研究関連授業科目	ドイツ文学 V	German Literature V	大宮勤一郎	火曜日(5,6,7限) 15:10-19:00	秋学期

2012年度(一橋:夏学期/冬学期、ICU:春学期/秋学期/冬学期、東外大:1学期/2学期、津田塾:前期/後期)

大学名	EU関係授業科目、 ヨーロッパ研究 関連授業科目の別	科目名(和・英)		教員名	曜日・時限	学期
ICU	ヨーロッパ研究関連授業科目	ドイツ文学 VI	German Literature VI	大宮勤一郎	火曜日(5,6,7限) 15:10-19:00	冬学期
ICU	ヨーロッパ研究関連授業科目	フランス語の諸相	Aspects of the French Language	青井明	月、水、金曜日(3限) 11:30-12:40	秋学期
ICU	ヨーロッパ研究関連授業科目	ヨーロッパにおける言語	Language in Europe	中邑啓子	火曜日(3限) 11:30-12:40 木曜日(2,3限) 10:10-12:40	冬学期
ICU	ヨーロッパ研究関連授業科目	西洋音楽史 I	History of Western Music I	伊東辰彦	月、水、金曜日(2限) 10:10-11:20	春学期
ICU	ヨーロッパ研究関連授業科目	西洋音楽史 II	History of Western Music II	伊東辰彦	月、水、金曜日(2限) 10:10-11:20	秋学期
ICU	ヨーロッパ研究関連授業科目	西洋哲学史 I	History of Western Philosophy I	上村直樹	水曜日(5,6,7限) 15:10-19:00	春学期
ICU	ヨーロッパ研究関連授業科目	西洋哲学史 II	History of Western Philosophy II	矢嶋直樹	月、水、金曜日(3限) 11:30-12:40	秋学期
ICU	ヨーロッパ研究関連授業科目	西欧政治思想史 I	History of Western Political Thought I	木部尚志	水曜日(5,6限) 15:10-17:40	春学期
ICU	ヨーロッパ研究関連授業科目	西欧政治思想史 II	History of Western Political Thought II	山岡竜一	金曜日(5,6限) 15:10-17:40	秋学期
ICU	ヨーロッパ研究関連授業科目	西欧政治思想史 III	History of Western Political Thought III	千葉眞	金曜日(5,6限) 15:10-17:40	冬学期
東外大	EU関係授業科目	ポーランド語(基礎1)	Polish (Basic 1)	石井哲士朗	月曜日(2限) 10:10~11:40	1学期
東外大	EU関係授業科目	ポーランド語(基礎2)	Polish (Basic 2)	石井哲士朗	月曜日(2限) 10:10~11:40	2学期
東外大	EU関係授業科目	チェコ語(初級1)	Czech (Basic Czech 1)	金指久美子	木曜日(3限) 12:40~14:10	2学期
東外大	EU関係授業科目	チェコ語(初級2)	Czech (Basic Czech 2)	金指久美子	木曜日(3限) 12:40~14:10	1学期
東外大	EU関係授業科目	スロヴェニアの言語と文化	Slovene Language and Culture	セスナ・イェリサヴァ	火曜日(5限) 16:00~17:30	2学期
東外大	EU関係授業科目	スロヴァキアの言語と文化I	Language and Culture of Slovakia (1)	長與進	火曜日(2限) 10:10~11:40	1学期
東外大	EU関係授業科目	スロヴァキアの言語と文化 II	Language and Culture of Slovakia (2)	長與進	火曜日(2限) 10:10~11:40	2学期
東外大	EU関係授業科目	ブルガリア語1	Bulgarian 1	寺島憲治	水曜日(5限) 16:00~17:30	1学期
東外大	EU関係授業科目	ブルガリア語2	Bulgarian 2	寺島憲治	水曜日(5限) 16:00~17:30	2学期
東外大	EU関係授業科目	ヨーロッパ国際関係論EU論A	European International Relations A	渡邊啓貴	木曜日(3限) 12:40~14:10	1学期
東外大	EU関係授業科目	ヨーロッパ国際関係論EU論B	European International Relations B	渡邊啓貴	木曜日(3限) 12:40~14:10	2学期

2012年度(一橋:夏学期/冬学期、ICU:春学期/秋学期/冬学期、東外大:1学期/2学期、津田塾:前期/後期)

大学名	EU関係授業科目、 ヨーロッパ研究 関連授業科目の別	科目名(和・英)		教員名	曜日・時限	学期
東外大	EU関係授業科目	EU経済論	International Economics (Contemporary European Economy)	田中素香	集中()	1学期
東外大	EU関係授業科目	比較・国際教育学	Comparative and International Education	岡田昭人	木曜日(3限)12:40~14:10	2学期
東外大	EU関係授業科目	ヨーロッパを考える	Rethinking Europe	篠原琢 他	水曜日(3限)12:40~14:10	1学期・リレー講義
東外大	ヨーロッパ研究関連授業科目	ドイツ・ロマン派の展開と受容(1)	German Romanticism 1	山口裕之	木曜日(4限)14:20~15:50	1学期
東外大	ヨーロッパ研究関連授業科目	ドイツ・ロマン派の展開と受容(2)	German Romanticism 2	山口裕之	木曜日(4限)14:20~15:50	2学期
東外大	ヨーロッパ研究関連授業科目	ナチ・ドイツ「民族共同体」の神話と現実	Myth and Reality of Nazi-German "Volksgemeinschaft"	相馬保夫	月曜日(3限)12:40~14:10	1学期
東外大	ヨーロッパ研究関連授業科目	戦後ドイツ・ヨーロッパ史:対立と共存	History of Germany/Europe after the Second World War: Conflict and Coexistence.	相馬保夫	月曜日(3限)12:40~14:10	2学期
東外大	ヨーロッパ研究関連授業科目	ロシア・東欧経済システム論	Economic System in Russian and East European Countries	鈴木義一	月曜日(4限)14:20~15:50	1学期
東外大	ヨーロッパ研究関連授業科目	ロシア経済史	Russian Economic History	鈴木義一	月曜日(4限)14:20~15:50	2学期
東外大	ヨーロッパ研究関連授業科目	ロシア・東欧諸国の政治と経済(1)	Politics and Economy in Ex-Soviet and East European Counties 1	鈴木義一	金曜日(5限)16:00~17:30	1学期
東外大	ヨーロッパ研究関連授業科目	ロシア・東欧諸国の政治と経済(2)	Politics and Economy in Ex-Soviet and East European Counties 2	鈴木義一	金曜日(5限)16:00~17:30	2学期
東外大	ヨーロッパ研究関連授業科目	ハプスブルク帝国政治文化史研究	Political Culture of Habsburg Monarchy	篠原琢	月曜日(4限)14:20~15:50	1学期
津田塾大	EU関係授業科目	欧州統合過程論	The Process of European Integration	網谷 龍介	木曜日(1限)8:50~10:20	後期
津田塾大	EU関係授業科目	東欧研究	East European Studies	吉岡 潤	金曜日(3限)13:00~14:30	通年
津田塾大	EU関係授業科目	EU特論I	EU Special Lecture I	藤川 哲史	夏期集中講義 9月16日(日)~18日(火)10:30~17:50 および19日(水)10:30~16:10	前期
津田塾大	EU関係授業科目	EU特論II	EU Special Lecture II	井口 直樹	月曜日(4限)14:40~16:10	前期
津田塾大	EU関係授業科目	EUと環境問題	Environmental Problems in the EU	大島 美穂	月曜日(3限)13:00~14:30	後期
津田塾大	EU関係授業科目	地域から見たEU	Regionalism in the EU	大島 美穂	月曜日(2限)10:30~12:00	後期
津田塾大	EU関係授業科目	EU特別講義	EU Special Lecture	(海外招聘教員)	未定	EU招へい教員による集中講義(予定)。2月実施の場合、4年生は聴講扱いとなる。
津田塾大	ヨーロッパ研究関連授業科目	イギリス文化概論	Cultural Studies of Great Britain	菅 靖子、伊藤 航多	木曜日(2限)10:30~12:00	通年

2012年度(一橋:夏学期/冬学期、ICU:春学期/秋学期/冬学期、東外大:1学期/2学期、津田塾:前期/後期)

大学名	EU関係授業科目、 ヨーロッパ研究 関連授業科目の別	科目名(和・英)		教員名	曜日・時限	学期
津田塾大	ヨーロッパ研究関連授業科目	多文化共生論	Multiculturalism Studies	北村 文	火曜日(4限)14:40~16:10	後期
津田塾大	ヨーロッパ研究関連授業科目	ヨーロッパ経済(イギリス)A	European Economy (Britain) A	杉崎 京太	木曜日(1限)8:50~10:20	前期
津田塾大	ヨーロッパ研究関連授業科目	ヨーロッパ経済(イギリス)B	European Economy (Britain) B	杉崎 京太	木曜日(1限)8:50~10:20	後期
津田塾大	ヨーロッパ研究関連授業科目	国際関係特別講義 B	Special Lecture B (International and Cultural Studies)	Bernadette Andreosso-O' Callaghan	集中(後期)	後期

## Report of Activity under the EUIJ Tokyo Project

Title of the Activity:	Reciprocal Use of Libraries Project no. ICU2011(2H)-2
Purpose of the Activity:	To carry out an educational program under Article 3 of the EUIJ Tokyo Consortium Agreement.
Description/Program:	(See attached document)
Date(s):	April, 2011 – March, 2012
Universities/Person(s) involved:	The four member university libraries of the EUIJ Tokyo Consortium
Place of the Activity:	The four member university libraries of the EUIJ Tokyo Consortium
Financial resources:	Each university's budget
Results:	The number of exchanges of the EU related books among consortium university libraries has been increased.
Future perspectives:	Searching for new fund to increase the number of books in the Library is expected.

	Hitotsubashi University Library Usage (AY2011)						Notes
	Came to Library		Registered as Patron		Items Borrowed		
	EUIJ※1	Other※2	EUIJ	Other	EUIJ	Other	
Patrons from TUFS	16	421	7	30	19	72	※1 Patrons coming through EUIJ reciprocal agreement ※2 Patrons coming regardless of EUIJ reciprocal agreement
Patrons from Tsuda College	16	666	8	61	19	410	
Patrons from ICU	0	33	0	0	0	0	
	Tokyo University of Foreign Studies Library Usage (AY2011)						Notes
	Came to Library		Registered as Patron		Items Borrowed		
	Patrons from Hitotsubashi University	62		16		11	
Patrons from Tsuda College	10						
Patrons from ICU	238		44		189		・Reflects number of students using library through ICU-TUFS reciprocal agreement (not possible to calculate a number strictly for usage through the EUIJ agreement)
	ICU Library Usage (AY2011)						Notes
	Came to Library		Registered as Patron		Items Borrowed		
	Patrons from Hitotsubashi University	23		0		0	
Patrons from Tsuda College	50		30		96		・Reflects number of students using library through Tama consortium reciprocal agreement (not possible to calculate a number strictly for usage through the EUIJ agreement)
Patrons from TUFS	1149		174		1002		・Reflects number of students using library through ICU-TUFS reciprocal agreement (not possible to calculate a number strictly for usage through the EUIJ agreement)
	Tsuda College Library Usage (AY2011)						Notes
	Came to Library		Registered as Patron		Items Borrowed		
	Patrons from Hitotsubashi University	-		-		0	
Patrons from TUFS	-		-		0		
Patrons from ICU	-		5		44		



## Report of Activity under the EUIJ Tokyo Project

Title of the Activity:	Open Lecture “Challenges to the EU and the Future of EU-Japan Relations”  Project no. ICU2011(2H)-3
Purpose of the Activity:	As part of Professor Takako Ueta's Politics and International Relations in Europe course.
Description/Program:	On 26 January, H.E. Hans Dietmar Schweisgut of the Delegation of the European Union to Japan lectured at ICU as part of Professor Takako Ueta's Politics and International Relations in Europe course.
Date(s):	Thursday, 26 January, 2012 15:10~16:20
Universities/Person(s) involved:	H.E. Hans Dietmar Schweisgut of the Delegation of the European Union to Japan
Place of the Activity:	International Conference Room , Kiyoshi Togasaki Memorial Dialogue House, ICU
Financial resources:	ICU's Budget
Results:	More than one hundred students attended to the Ambassador's lecture entitled "Challenges to the E.U. and the Future of E.U.-Japan Relations," covering the E.U.'s response to the Euro crises, background to the sanctions against Iran and relations with Japan.
Future perspectives:	

*Open Lecture*

駐日 EU 代表部大使公開講演会

Challenges to the EU and the Future of  
EU - Japan Relations

ハンズ・ディートマール・シュヴァイスグート  
大使

Ambassador Hans Dietmar Schweisgut

Ambassador of the European Union to Japan

1月26日(木) 15:10-16:20 ダイアログハウス 2F 国際会議室

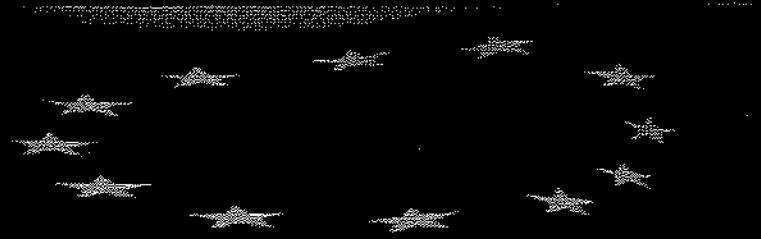
---

15:10-16:20 THURSDAY, JANUARY 26, 2012  
International Conference Room, Dialogue House 2F  
Lecture in English

## Report of Activity under the EUIJ Tokyo Project

Title of the Activity:	Open Lecture “Current State and Future Prospects of EU-Japan Relations”  Project no. ICU2011(2H)-4
Purpose of the Activity:	As part of Professor VOSSE, WILHELM M.'s Japan's International Relations course.
Description/Program:	This lecture will provide an overview of the current state, problems, and challenges of EU-Japan relations from an insider and practitioners perspective. The talk will cover the negotiations about the Japan –EU Economic Partnership Agreement, and recent development in cooperation in the field of security, such as in the joint activities in Central Asia and the fight against piracy in the Gulf of Aden.
Date(s):	Thursday, 2 February, 2012 10:10~11:30
Universities/Person(s) involved:	Albrecht Rothacher (First Counselor, (Economic and Political) at the EU Delegation to Japan)
Place of the Activity:	Rm. 260, University Hall, ICU
Financial resources:	ICU's budget
Results:	More than one hundred students attended to the First Counselor's lecture.
Future perspectives:	

*SSRI Open Lecture*



# Current State and Future Prospects of **EU-Japan Relations**

LECTURER **Albrecht Rothacher**

First Counsellor, Delegation of the EU to Japan

**February 2 (Thu.)**

**10:10-11:30**

**H-260**

<http://subsite.icu.ac.jp/ssri>

Contact : SSRI ext 3224

## Report of Activity under the EUIJ Tokyo Project

Title of the Activity:	Open Lecture “Croatia and the EU” Project no. ICU2011(2H)-5
Purpose of the Activity:	As part of Professor Takako Ueta's Politics and International Relations in Europe course.
Description/Program:	Topics Ambassador Martinec emphasized were the process Croatia went through to become a member of the European Union and great effort required to make reforms to make national structures meet EU systems in order to become a member of the union. The ambassador explained that despite the current euro crisis Croatia had no intention of remaining outside the EU and that since joining the EU they have enjoyed the merits of being a member in terms of such areas as commerce.
Date(s):	Thursday, 9 February, 2012 15:10~16:20
Universities/Person(s) involved:	Mira Martinec, Ambassador of the Republic of Croatia to Japan
Place of the Activity:	International Conference Room , Kiyoshi Togasaki Memorial Dialogue House, ICU
Financial resources:	ICU's Budget
Results:	Over one hundred students attended the lecture and afterwards there was lively question and answer.
Future perspectives:	

*Open Lecture*

クroatia大使公開講演会

**Croatia and the EU**

ミラ・マルティネツ 大使

**Ambassador Mira Martinec**

2月9日(木) 15:10-16:20 ダイアログハウス2F 国際会議室

15:10-16:20 THURSDAY, FEBRUARY 9, 2012  
International Conference Room, Dialogue House 2F  
Lecture in English

## Report of Activity under the EUIJ Tokyo Project

Title of the Activity:	EUIJ Public Lecture "Contextualization in Translator/Interpreter-mediated Events in the time of Globalization"  Project no. Tsuda2011(2H)-1
Purpose of the Activity:	To promote understanding between the EU and Japan
Description/Program:	Date and Time: Sunday, 30 October 2011, 10:30-12:00 Venue: Nakajima Memorial Hall, 1F, No. 7 Building Kodaira Campus, Tsuda College Lecturer: Mona Baker, Professor of Translation Studies and Director of the Centre for Translation and Intercultural Studies at the University of Manchester, U.K. Language: English (Consecutive interpretation)
Date(s):	Sunday, 30 October, 2011
Universities/Person(s) involved:	Professor Atsuko Hayakawa, Professor Takamoto Sugisaki
Place of the Activity:	Nakajima Memorial Hall, 1st floor of Bldg. No. 7 Kodaira Campus, Tsuda College
Financial resources:	EUSI
Results:	On 30 October, 2011, Public Lecture "Contextualization in Translator/Interpreter-mediated Events in the time of Globalization" by Professor Mona Baker from the University of Manchester was held at Tsuda College organising by Professor Atsuko Hayakawa, Department of English. The importance of translation and interpretation among many languages in the EU was clearly focused and discussed. Over one hundred and twenty students, Tsuda alumnae, general public and researchers in the field of translations and interpreting participated in this lecture. The audience was quite interested in the interpreters' and translators' role in the multi-lingual societies in the EU, and importance of English as the Lingua Franca in the EU as well. The meaning and importance of languages in the context of European integration would be much more considered in the public lectures of this course further.
Future perspectives:	A series of the lectures is beneficial as public relation activities for EUSI/EUIJ and Tsuda College to enhance Tsuda's academic contribution to the public. Tsuda College will offer more attractive and interesting to understand the EU in 2012.

# Professor Mona Baker



The University of Manchester

Professor Baker, who is Professor of Translation Studies and Director of the Centre for Translation and Intercultural Studies at the University of Manchester, U.K., will conduct a lecture on functions of language and its roles to play under globalization.

**Topic: Contextualization in Translator/Interpreter-mediated Events in the Time of Globalization**

**Date and Time : Sunday, 30th October 2011, 10:30-12:00**

**Venue : Nakajima Memorial Hall, 1F, No. 7 Building  
Kodaira Campus, Tsuda College**

**Language : English (Consecutive interpretation)**

**Admission : Free (Reservation is required)**

## Professor Baker Profile

- In 1997 Professor Baker founded the Centre for Translation and Intercultural Studies at the University of Manchester.
- She has been recognized internationally as an expert in the field of translation and interpretation.
- She has provided lectures throughout the world.
- She has many publications such as *Translation and Conflict: A Coursebook on Translation* (2011)

Contact : EUSI Tsuda

E-mail: [eusi@tsuda.ac.jp](mailto:eusi@tsuda.ac.jp)

Tel: 042-342-5134

<http://www2.tsuda.ac.jp/eusi/>



## Report of Activity under the EUIJ Tokyo Project

Title of the Activity:	EUIJ Public Lecture "Comparative Refugee Policies: My Personal Experience in Kosovo"  Project no. Tsuda2011(2H)-2
Purpose of the Activity:	To promote understanding between the EU and Japan
Description/Program:	Date and Time: Friday, 11 November 2011, 18:00-19:30 Venue: Room T101-T102, 1F, Tsuda Hall, Sendagaya Campus, Tsuda College Lecturer: Daniel Alkhal, Senior Legal Officer, UNHCR Japan Language: English (Consecutive interpretation)
Date(s):	Friday, 11 November, 2011
Universities/Person(s) involved:	Professor Takamoto Sugisaki
Place of the Activity:	Room T101-T102, 1F, Tsuda Hall, Sendagaya Campus Tsuda College
Financial resources:	EUSI and Sendagaya Education Research Center Project, Tsuda College
Results:	On 11 November, 2011, the Public Lecture "Comparative Refugee Policies: My Personal Experience in Kosovo" by Dr. Daniel Alkhal, Senior Legal Officer, UNHCR Japan, was held and Dr. Ai Ozawa, Associate Researcher, Keio Jean Monnet Centre of Excellence for EU Studies, made some comments as a discussant. On the human rights and refugee policies in the EU, in comparison with the Japanese policy were called attention and the number of audience was around forty.
Future perspectives:	A series of the lectures is beneficial as public relation activities for EUSI/EUIJ Tsuda College to enhance Tsuda's academic contribution to the public. The number of attendee has been increased in 2011, which will be enlarged further in 2012 through the activities to deepen the knowledge on the EU today.



## **Daniel Alkhal** **Senior Legal Officer** **UNHCR Japan**

### **Topic** **Comparative Refugee Policies:** **My Personal Experience in** **Kosovo**

Date and Time : Friday, 11th November 2011, 18:00-19:30

Venue : Room T101-T102, 1F, Tsuda Hall,  
Sendagaya Campus, Tsuda College

Language : English (Consecutive interpretation )

Admission : Free (Reservation is required )



**Mr. Alkhal, Senior Legal Officer at UNHCR Japan, will offer a lecture on its refugee protection policy based on his experience.**

### **Mr. Alkhal Profile**

- Mr. Alkhal earned his Juris Doctor Degree in the Law School at the City University of New York in 1996.
- He has continued to serve in positions such as Legal Officer and Director at UNHCR in Turkey, Bosnia, and Lebanon since 1997.
- He has engaged in the current position since May, 2007.
- He is fluent in English, Arabic, and French.
- He has been providing numerous lectures in Japan and abroad.

EUSI (EU Studies Institute) Tokyo  
Sendagaya Education Research Center  
Project, Tsuda College

Contact : EUSI Tsuda  
E-mail: [eusi@tsuda.ac.jp](mailto:eusi@tsuda.ac.jp)  
Phone: 042-342-5134  
<http://www2.tsuda.ac.jp/eusi/>

## Report of Activity under the EUJ Tokyo Project

Title of the Activity:	EUIJ Public Lecture "E-Government in Sweden and the EU " Project no. Tsuda2011(2H)-3
Purpose of the Activity:	To promote understanding between the EU and Japan
Description/Program:	Date and Time: Saturday, 19 November 2011, 10:30-12:00 Place: Room T101-T102, 1F, Tsuda Hall, Sendagaya Campus, Tsuda College Lecturer: Sara Eriksén, Professor, the School of Computing at Blekinge Institute of Technology, Sweden Language: English (Consecutive interpretation)
Date(s):	Saturday, 19 November, 2011
Universities/Person(s) involved:	Professor Takamoto Sugisaki
Place of the Activity:	Room T101-T102, 1F, Tsuda Hall, Sendagaya Campus Tsuda College
Financial resources:	EUSI and Sendagaya Education Research Center Project, Tsuda College
Results:	Professor Sara Eriksén offered a public lecture on the "E-Government in Sweden and the EU" on Saturday, 19 November, on Sendagaya Campus, Tsuda College. She discussed the importance of the latest IT technology development in Sweden and the EU and introduced her new experimental project using IT among universities, municipal administration and social facilities in Sweden. Audience, ten including Tsuda student belong to the departments of International Cultural Studies, English and Mathematics, alumnae and a researcher of the specialized area, were greatly impressed by the new achievement for the aged and handicapped people mentioned in the explanation of the new project. They were eager to learn more detailed experiments and systems of e-government in the countries in the EU comparatively.
Future perspectives:	This lecture provided a new opportunity of the academic exchanges in the fields of the IT and engineering that we had hoped for a long time and it was successfully accomplished. We will continue to make exchanges with BTH including in the field of social and human sciences, which will enhance the exchanges with universities in the EU.



EUSI/EUIJ Tsuda Public lecture



# Professor Sara Eriksén



Professor Sara Eriksén in the School of Computing at Blekinge Institute of Technology, Sweden, which has an exchange agreement with Tsuda College, will provide a lecture on E-Government in Sweden and the EU.

**Topic: E-Government in Sweden and the EU**

**Date and Time : Saturday, 19th November 2011, 10:30-12:00**  
**Place : Room T101-T102, 1F, Tsuda Hall, Sendagaya Campus, Tsuda College**  
**Language : English (Consecutive interpretation)**  
**Admission : Free (Reservation is required)**



## Professor Eriksén Profile

- She is a professor at Blekinge Institute of Technology.
- She earned her Ph.D. at Lund University, Sweden in 1998.
- As an E-Government specialist, she has been offering lectures throughout the world.
- She has many publications such as *E-Government as co-construction*. (2003)

EUSI (EU Studies Institute) Tokyo  
Sendagaya Education Research Center Project, Tsuda College

Contact : EUSI Tsuda  
E-mail: [eusi@tsuda.ac.jp](mailto:eusi@tsuda.ac.jp)  
Tel: 042-342-5134  
<http://www2.tsuda.ac.jp/eusi/>

